

農業のはじめの一步！鳥獣害対策を現場で学ぶ

～農業経営体育成セミナー合同研修Ⅰ（鳥獣害対策）の開催～

1 課題の背景とねらい

当農業事務所では、就農間もない青年農業者を対象に、農業経営に関する技術や知識を学ぶ「農業経営体育成セミナー」を開催しています。

近年千葉地域では、野生鳥獣による農作物被害が年々増加しており、被害金額や被害面積の拡大が深刻な問題となっています。

そのため、新規就農者が安定した農業を営むためには、効果的な野生鳥獣対策が必要不可欠です。受講者が野生鳥獣の生態について理解を深め、具体的な対策を実践できるようになることを目的に、専門家を講師に迎え、鳥獣害対策の研修会を開催しました。

2 普及活動の経過・結果

（1）令和7年度農業経営体育成セミナー合同研修Ⅰ（鳥獣害対策）の開催

8月5日に「令和7年度農業経営体育成セミナー合同研修Ⅰ（鳥獣害対策）」を開催し、対象の農業経営体育成セミナー受講者35名のうち9名が参加しました。

本研修では、受講者が①水田・畑や周辺環境に残った痕跡による種類の特定の方法が理解できる、②獣の生態に合わせた対策ができる、③野生鳥獣被害の相談先について知る、の3点をねらいに開催しました。

前半はイノシシの行動を記録した動画や畑に残された足跡の写真から、イノシシの身体能力に高さと行動範囲の広さ、オスは単独行動、母子は集団行動により移動することの説明を受け、野生鳥獣被害が急拡大している現状や地域ぐるみの取り組みが必要であることを実感しました。

後半は受講者のほ場に移動し、ほ場と周辺環境を観察しました。実際に残された獣道、足跡の痕跡から、周辺の耕作放棄地に獣が潜んでいることや近隣の家庭菜園や果樹も餌場となっていることが分かりました。



写真1 講師の説明



写真2 講義の様子

実際に受講者が張った電気柵の整備状況を確認したところ、雑草による漏電で効果が落ちていることが原因で、こまめな草刈りの大切さを再確認しました。また、当事務所企画振興課から、国及び千葉地域の各自治体の支援策について説明し、相談先を知ってもらうことができました。



写真3 周辺環境（生息場所）の説明



写真4 足跡の見方の説明

3 今後の課題

出席した受講者は、すでに鳥獣被害にあっていたため、「とても分かりやすかった」「柵の張り方を見直したい」「草刈りを積極的に実施したい」などの具体的な声が聞かれました。特に野生鳥獣の生息場所をなくすためや、電気柵の漏電を防ぐために、まず取り組める手段として、草刈りの重要性を理解したという具体的な意見も寄せられました。また、地域ごとに対策を行っていることを知り「自治会に相談してみます」という声も聞かれ、受講者の農業経営に研修内容を活用することが期待されます。

今後も、新規就農者が鳥獣害対策について学び、個人でできる対策の他、地域全体で協力して対策に取り組むことの大切さを理解できる機会を作っていきます。

4 担当者

千葉・習志野グループ
市原グループ
八千代グループ

5 協力機関

千葉市、習志野市、市原市、八千代市